



# コンテ

こんて



角柱型コンテ



様々な色のコンテ



鉛筆型コンテ

## 概要

コンテは、天然顔料を粉末状にし、棒状に固めるなどの加工をした描画材で、別名カーボンチョークとも呼びます。材質の硬度が鉛筆と木炭の中間程度で、柔らかさと硬さを合わせ持っているため、多様な描線が引け、主にデッサンやクロッキーに利用されています。

コンテの形状は、長さが約 6.5cm 位の棒状の角柱型や円柱型が一般的ですが、木材の軸に納めた鉛筆型もあります。基本色は白、黒、赤褐色ですが、メーカーにより茶や灰色、その他に様々な色のものがあります。コンテは、酸化鉄やカーボンブラック、酸化チタンなどの天然顔料を、粉末状にして精製し、それに粘土や固着材のセルロースなどを加え、棒状に押し固めて成型した後、焼成されてできています。そのため、色材には、オイルパステルのような油分や定着成分は含まれず、粉っぽい粒子状の描線になります。コンテの基本的な製法を開発したのが、鉛筆の発明でも知られるフランスのニコラ・ジャック・コンテ (1755～1805) で、その後、コンテ社を設立し「コンテクレヨン」として販売することで世間に広まり、この名が定着しました。

描画の際は、コンテ全体が色材であるため、先端や側面などのあらゆる部分を利用することができます。基本的には、先端の角部分や鋭利に削るなどして線描をしますが、コンテを横に寝かせて側面部分を使うことで、幅のある面的な塗りができます。また、角柱型のコンテの場合、側面のエッジを利用することで、直線的なシャープな線描や、線と面的効果を組み合わせた描線を引くことができます。さらに、描いた部分は色材が粒子状になり定着力も弱いので、指やガーゼを使って、ぼかしや淡い調子などを作ることができます。コンテ各色を用いて描く場合は、色の付いた紙を用いることで中間の調子とし、陰影部分を黒や褐色系で描き、明部に白を用いて描画していきます。この方法により豊かな立体表現が可能で、レオナルド・ダ・ビンチなど、多くの作家による優れたデッサンが残されています。

使用上の注意として、コンテには色材を支持体に定着させる成分が含まれていないため、描画部分の色材が非常に取れ易い状態になっています。そのため、完成後はフィ

あ  
か  
さ  
た  
な  
は  
ま  
や  
ら  
わ  
A  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z  
数字

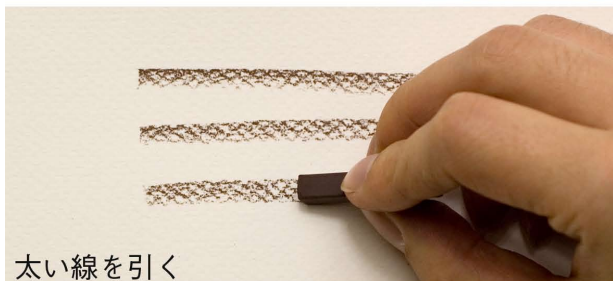
クサチーフをかけてしっかり定着させましょう。また、額装の際は、アクリル板でなくガラスのものを使用しましょう。静電気により色材が剥がれてしまう恐れがあります。

コンテは、画材店や文具店で購入できます。

### 使用例（キャンソン ミ・タント）



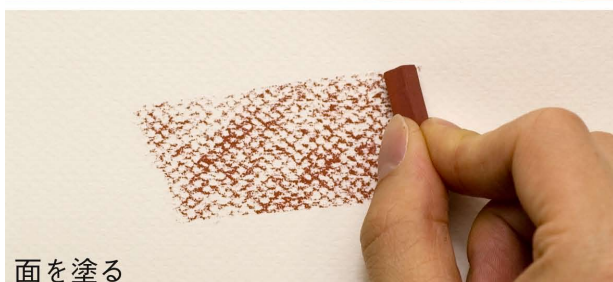
細い線を引く



太い線を引く

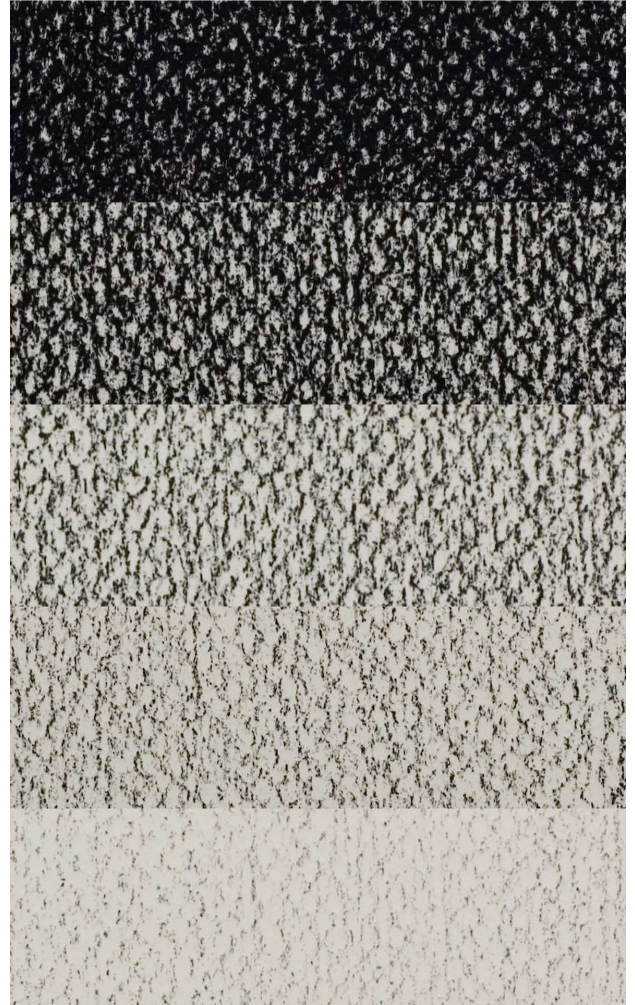


シャープな線を引く



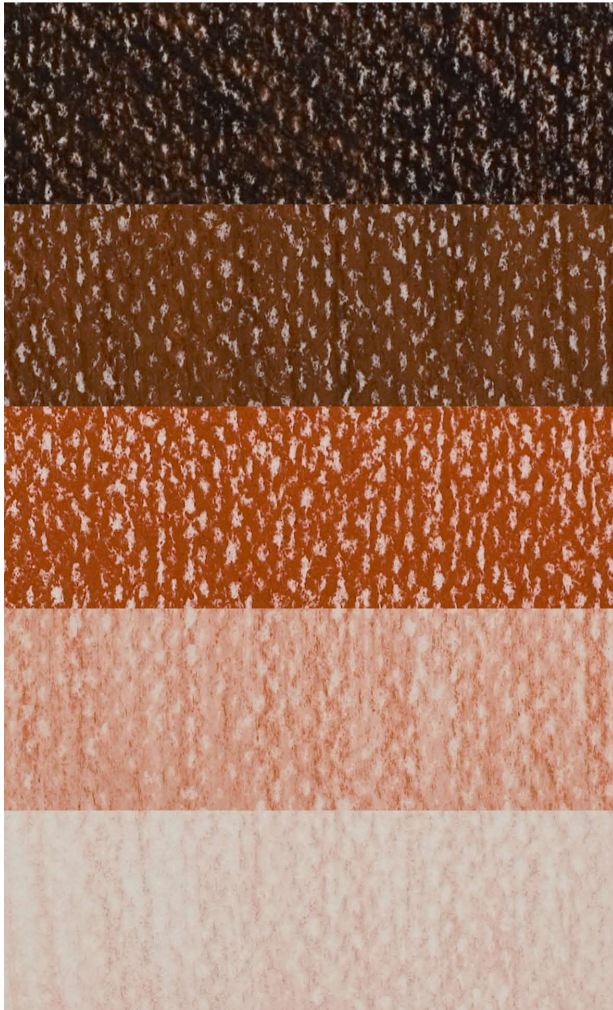
面を塗る

### コンテ黒のみによる描画例（ミ・タント）





コンテ黒・茶・白による描画例 (ミ・タント)



コンテ黒・白による描画例  
※紙の色 (ミ・タント 赤茶系) を中間色として

